

## 第4次国有林野事業流域管理推進アクションプログラム (磐城流域)

### 1 流域の特色（国有林86.3千ha 民有林118.7ha）

- ① 本流域は福島県の東部に位置し、太平洋と阿武隈山地に挟まれたいわゆる「浜通り」と呼ばれる地域である。

国有林はその大部分が阿武隈山地に位置している。松川浦、夏井川溪谷、勿来、磐城海岸、<sup>りょうぜん</sup>霊山県立自然公園等の景勝地も多く、自然探勝やハイキングなど森林を活用したレクリエーションや保健・休養の場として多くの人々に利用されている。

また、降雪量が少なく温暖な気候であり、一年を通して人々が訪れている。

阿武隈山地の東部から南部の地域はスギに適した適潤性土壌が多く、本流域の人工林率は、民有林53%・国有林61%であり林業地帯となっている。

- ② 流域西部の山間部を中心に豊富な人工林資源を有し、首都圏を中心とした木材需要を視野に、製材工場、木材加工工場が発展を続けてきました。近年大型国産材工場の進出稼働により、外材依存から国産材へと転換する動きが見られます。このようなことから当地においては、人工林からの間伐材を含む原木が地域の木材関連産業へ安定的・継続的に供給される体制を早急に整備する必要に迫られている。

また、間伐未利用材や林地残材を利用した燃料用チップとしての需要が高まってきている。このような状況からまとまりの小さな林地残材等を効率的に回収するシステムが必要になってきている。

- ③ 森林は環境の保全や水源涵養など多様な機能を有しています。これらの機能を一般市民等に紹介し、地球温暖化問題や身近な生活環境に対する関心の高まりに応えていくことが求められている。このため、森林とのふれあいの場の提供や森林整備体験活動などの取組が必要になっている。

### 2 流域内で優先的に取り組むべき課題

- ① 間伐材等を利用した木質バイオマスの燃料への取組
- ② 専用コンテナを活用した集荷システムの利用促進
- ③ 林地残材の集荷システムを定着・拡大するための現地検討会等を実施
- ④ 協定箇所等において、体験活動や自然観察、森林教室の実施

### 3 国有林野事業に対する流域内のニーズ・要望

- ① 県・市町村・教育機関等
  - ア) 保育作業・間伐等さらなる森林整備  
森林整備の促進、地域要望に沿った保育、間伐材や林地残材の活用促進
  - イ) 森林環境教育の推進  
森林の大切さのアピール・ボランティア活動への協力、地元名勝箇所に至る歩

道の整備、森林体験や観察会の機会や場所の提供、森林セラピーやレクリエーションの場の提供

ウ) 情報の発信

自然休養林や風景林、国有林野事業の実施状況の周知

エ) 森林病虫害及び獣害等による被害防止

抵抗性マツの植栽・伐倒駆除薬剤使用の徹底・猿被害対策として広葉樹の植栽

オ) その他

国有林林道の整備（路面の整正）、路網の整備

② 森林・林業関係業界等

地産地消のため地元業者の事業実行

③ 市民・NPO法人等

森林施業

住民参加の下森林の健康診断の実施及び農林家を含めた森林手入れの展開

#### 4 国有林野事業が率先して行う取組

##### ① 計画的な木材供給の推進

ア) 目標

- ・安定供給システム等を通じて間伐材等の利用量の増加を図る。
- ・間伐材、未利用材の需要拡大

イ) 連携・協力機関

林業事業体・木材関連企業・県・市町村等

ウ) 取組方向

- ・現地検討会等において情報提供をする。
- ・林地残材の集荷システムを定着拡大するため現地見学会を開催

##### ② 森林施業の効率化・共通化等の取組

ア) 目標

低コスト作業システムの普及

イ) 連携・協力機関

林業事業体、活性化センター、県、市町村、林業関係者

ウ) 取組方向

自然環境に配慮しつつ、より効率的な作業システムの構築に向けて取り組む。

##### ③ 林業技術の開発・普及・啓発・林業事業体の育成

ア) 目標

新規林業労働者の確保と定着に向けて研修フィールドの提供

イ) 連携・協力機関

県・市町村・林業関係者

ウ) 取組方向

緑の担い手対策事業のフィールドとして国有林を積極的に提供

④安全・安心への取組

ア) 目標

地域住民を対象として治山技術の普及・啓発に向けて見学会の開催

イ) 連携・協力機関

活性化センター・県・市町村・土木関係者

ウ) 取組方向

治山事業の実施を通じて、地域住民への防災情報の発信をするために見学会を実施

⑤生物多様性保全に配慮した取組の推進

ア) 目標

情報収集を積極的に行うとともに、機動的な取組で森林病虫害等拡大防止

イ) 連携

協力機関：県・市町村・林業関係者

ウ) 取組方向

- ・ 民有林との連携を図りつつ、松クイ虫の被害拡大防止
- ・ 猿等獣害被害対策については、広葉樹林への誘導や植栽の実施

⑥上下流の連携強化のための下流住民等に対する情報提供、林業体験活動等

ア) 目標

NP0、教育関係機関等と連携した森林環境教育、森林整備等の実施

イ) 連携・協力機関

NP0、小中学校、教育委員会、ボランティア団体等

ウ) 取組方向

- ・ 森林環境教育の場を通して森林の持つ多様な機能の理解を深める。
- ・ 各種イベント等に参加、協力

流域名・流域番号	磐城流域（32）	担当部署	磐城森林管理署
計画期間	平成22年4月1日～平成25年3月31日		